

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	千曲市立屋代中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	5	2	16	26
生徒数	175	153	162	6	496	

学校の概要

1. 研究主題

実感し、考え(探り、練り上げ)発信する力を育てる授業

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生・国語 学校として平成14年度に研究を行い実績があるため</p> <p>2年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため</p> <p>2年生・理科 自然事象に対する興味・関心が薄れてきがちな教科、学年であるため</p> <p>2年生・技術、家庭科 学校として平成16年度に教育課程研究協議会を控え、その第一歩を踏み出し、実績をつくりたいため</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ : 実感し、考え(探り、練り上げ)発信する力を育てる授業</p> <p>研究の見通し : 各教科、生徒の実態をCRTなどの結果をもとにして把握し、満足している力と不足している力を見極め、不足している力をつけるための手だてとそれに適した場面と教材を研究していく。</p> <p>研究の内容・方法 : 不足している力をつけるための手だてとそれに適した場面と教材を探し、実証授業を繰り返し行い手だての加除修正しながら生徒の実態にあった方向を見だし力をつけていく。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ : 実感し、考え(探り、練り上げ)発信する力を育てる授業</p> <p>研究の見通し : 各教科、生徒の実態をCRTなどの結果をもとにして把握し、満足している力と不足している力を見極め、不足している力をつけるための手だてとそれに適した場面と教材を研究していく。</p> <p>研究の内容・方法 : 不足している力をつけるための手だてとそれに適した場面と教材を探し、11月上旬の公開授業で成果を検証して頂く。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

どんな花でも精いっぱい
～夢に誇りのせて～

学校教育目標

考え、取り組み、発信する心豊かに自立した生徒の育成
～感動・意欲 実践・自省 知識・発表～

「全校一斉10分間読書の徹底」「道徳の充実」「人間関係力を育てる学級活動の実践」によって、感動・感謝の感性を育てる。
「活動の意義をつかませ、やってみせ、させてみて、考えさせ、褒める」ことによって、快活さ・意欲を育てる。
「自分の夢の明確化」「本校の誇りの意義の把握」「部活動の充実」によって、粘り強い実践力を育てる。
「全校一斉1分間黙想の徹底」「短学級学活時の正副担任の話」「生活ノートの充実」によって、自分のありようを振り返る力を育てる。
「学習意欲をもたせる工夫、直接体験活動や問題解決的な指導」によって、学習内容の理解を図り、その内容を友や地域に生き生きと発表する力を育てる。
「読み・書き・計算的な積み重ね学習」「学級合唱や全校合唱」を取り入れることによって、基礎的な知識や技能を確実に定着させる。

教科指導力
生徒指導力
知識発表

保護者
地域の方の思いや願い

全校研究テーマ

実感し、考え（探り、練り上げ）発信する力を育てる授業

同僚の実践や研修

教科指導の重点

- ・発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導
- ・個に応じた指導のための指導方法・体制の工夫改善
- ・生徒の学力の評価を生かした指導の改善

心身の成長

学力向上

体験活動から学びあう職員集団

教科（必修・選択）	総合的な学習 A・B	道徳	特別活動	部活動
<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲をもたせる工夫 ・直接体験活動や問題解決的な学習で学習内容の理解を図る ・読み、書き、計算的な積み重ね学習 ・目標に準拠した評価と指導の研究 ・数学、英語の少人数学習の推進 ・定着補充、充実発展、課題学習による選択教科学習による選択教科学習指導 ・レポートによるまとめと発表力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決能力の育成 ・発信力（発表力）の育成 ・地域素材の教材化 <p>1年生 更埴の「自然と環境」(学級単位) 2年生 「歴史と文化」(テーマ別講座選択) 3年生「産業と経済」(個人選択)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材力や施設の活用 ・年間指導計画の見直しと修正 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の充実による豊かな人間性の育成 ・体験活動と関連づけた道徳 ・道徳的価値の自覚 	<p>1 学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係力を育てる学級活動の実践 ・短学活の内容の工夫と精選 <p>2 学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杏タイムでの全校合唱 <p>3 生徒会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒による「本校の誇り」の決めだしと実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・「時を守り、場を清め、礼を尽くす」 ・心身を鍛える人間形成の場 ・自ら意欲的に活動する生徒の育成 ・挨拶、服装、マナーの徹底 ・開始、終了時刻の徹底

友達づくり

進路実現

規範意識

「誇り」とともに前進していく一人一人の生徒会

心を交わす明るい挨拶 ・地域の方への挨拶 ・「はい」の返事の実践	感動を生む大合唱 ・一日一回のクラス合唱 ・週一回の学年音楽集会	自らを磨く気づき清掃 ・清掃前の学年一斉黙想 ・無言清掃から気づき清掃へ
--	--	--

ゆとりある教育活動を目指して 2期制導入の検討

- ・屋代中学校教育地域人材バンク活用（部活動）
- ・屋中便り、学年通信発行
- ・学校評議員会による学校評価
- ・人権擁護委員会
- ・安心の家との連携
- ・学校評議員会による学校評価
- ・屋代中学校ホームページの更新

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

【数学】

平成15年10月に文部科学省の学力調査が行われたが、計算分野については、ほぼ70～80%の通過率であり、計算力は比較的高いと考えられる。分数の足し算の通過率(3学年同一問題)は1年:83%、2年:84%、3年87%と学年を追って正答率が高まっていた。また、同年12月に2年生だけを対象とした観点別到達度学力検査(CRT)では、「数と計算」領域では、全国比102(全国=100)であったり、観点別得点率でも「数学的な表現・処理」が69.4(全国66.5)であったりし、基礎基本の定着が伺える。

【国語】

静かに話を聞ける生徒は多いが、「相手の思いや考えを正しく聞き取る」ということに関しては国語科としての聞き方のスキル=技術の指導が必要であると考えた。手だてとしては「聞き取りでは単語を中心にした樹形図型メモを利用し内容を構造的にとらえさせる。相手意識、目的意識を明確にもたせ必要な情報を取捨選択する力をつけさせる。」の二つを柱とした。これにより能動的に聞く態度を高めることができ、発信にもつながる「話を構造的に捉えること」ができるようになった。

【理科】

本校生徒は興味を持って観察・実験を行うが、その背後にある自然のしくみや法則性を考える姿勢が弱い。そこで、生徒が予想にもとづいて検証方法を考え、目的意識をもって観察・実験に取り組む授業を目指した。抽象的な概念での思考が要求され、興味・関心が薄れがちになる2年「化学変化と原子・分子」の学習で、酸化銀の分解を演示実験ではなく生徒実験で行った。観察した現象から生成物の予想とその検証方法を考え、班で相談することにより、生成物が何かを考えながら関心をもって実験をする姿が見られた。また、生成物が何かを導くことができ、分解についての理解を深めることができた。

2. 今後の課題

【数学】

平成15年12月上旬に観点別到達度学力検査(CRT)を2年生を対象におこなった。その結果、「数と計算」と「図形」領域では全国平均を上回っているが、「数量関係」(連立二元一次方程式)の領域では全国比95(全国=100)と低い数値になってしまった。週3時間という限られた授業時数の中で、基礎基本の活着の場面だけでなく、問題解決型学習の場面も取り入れ、「表現・処理能力」だけでなく、「数学的な見方・考え方」も育てていかなければいけない。その実証として、今年度の研究テーマに「～問題文を読みとり、図や表に表す力をつける指導～」というサブテーマも添え、学力向上フロンティア事業の最終年度にあたる平成16年11月上旬に数学科の公開授業を予定している。

【国語】

樹形図を使った聞き取りは斬新で、構造的に聞き取るよい手段であった。ただ、聞き取りに関しては「文と文をつなぐ言葉」をもっと意識させる必要がある。次の内容に移るポイントが接続語であったり、順序を表す言葉であったりすることに気づかせる授業を仕組みたい。また、構造的に聞き取る力をつけたら、それを話す力、書く力にもつなげていきたい。「相手の思いや考えを正しく聞き取る」ことが表現・発信にもつながっていくことを生徒にも実感させ、つける力としていく必要がある。

【理科】

本年度の実践は、生成物を予想する根拠がもてなかったので、自然事象について自分の考えを深めていく力をつけるにはやや弱い教材であり、展開の仕方にも工夫の余地があった。既習事項との関連を深めること、自分の考えをもたせること、生徒同士の練り上げの場をつくること等を取り入れ、生徒の意識の流れを大切にしながら展開にする必要がある。また、考察段階での思考の深めさせ方についても今後の課題である。

